

1 リスク Basic Dimension

艇庫は、水辺に近く、また場合によっては都市部から離れた郊外、辺境の地にあることも少なくない。そこにはどのような危険要素があるだろうか？ 建設時であれば、リスクを想定し、適切な対策(ハードウェアとしての艇庫の設計・建造)に努めるべきである。そして運用面での注意、安全対策も大切である。

もちろん、すべてのリスクに完全に対処することはできないし、リスクマネジメントの観点からも非現実的だが、どのようなリスクがあるか列挙・整理する作業だけでも意味がある。その中で、リスク(=確率×被害規模)が大きく想定され、また有効な対策が取れることから手をつけていこう。その地域・水域ごとに、リスクの有無を情報収集し、できれば専門家の助言も得て検証し、必要な防災対策を講じていこう。

2 自然災害、社会災害(人災) Disaster

艇庫は、水辺にあり、また山間部・急斜面の下などに建てられていることもあり、自然災害(気象災害(洪水、高潮、(台風を含む)暴風雨などの、土砂災害などの危険がある場合も多い。

□暴風雨・波浪対策、大雨、洪水～浸水・土石流対策など：例えば、自治体が発行する洪水予想のハザードマップや、過去の地域事例などからリスクを正しく把握し、危険予知～避難対策などの体制を整えておこう。

□降雪(積雪による倒壊)、雪崩、吹雪：寒冷・降雪地域では、例えば過去の最大積雪を想定し、艇庫の強度評価を行い、必要に応じ補強や避難の体制を講じておくべきである。

□地震・火山～地盤災害(液状化、沈下)：日本では程度の差こそあれ、どこでも地震災害のリスクは避けられない。中規模地震に対する被害軽減(艇・オールの落下防止、棚などの転倒防止の対策は、すぐにとりかかれる。大地震での建物崩壊や、最善の人的被害軽減策(倒壊を想定した緊急避難スペース、退避箇所の明示など)もできることから検討していこう。地震によるガス、電気関係のリスクも見逃さないようにしよう。

※東日本大地震(2011.3.11)で多くの水域・艇庫が被害を受けた。東北大学名取艇庫は大津波に吞まれ艇も全損したが、頑丈な3階建の建物が、屋上に逃れた近隣の人々の命を救った。

□社会災害(人災)：場合によっては周辺の人工施設(都市・産業構造物)が災害のリスクを持っているかもしれない。例：工場の爆発・火災、鉄道事故、原発の放射性物質、放射線漏洩事故、化学工場等からの有害物質漏洩、ダム の崩壊、ビルの崩壊etc.

3 犯罪被害 Crime prevention

乗艇のために艇庫を開けたまま部員が不在となりがち艇庫は、おそらく空き巣狙いからみればこの上ない“カモ”かもしれない。

事例1： 広島の大田川水域では、乗艇中に無人の艇庫を荒らされた事件が複数起きている。高校生が自転車を盗まれたこともある。個人的には、車のガラスを割られて車上狙いにあった。それ以来、駐車する車の中の、目に付くところには大事なものを置かないようにしている。特にカバンなどをやむを得ず残すときは足元の暗い所に置き、何かを被せ見えないようにしている。

もう一つの課題は、被害が共有されにくいリスクがある。例えば「内部の不祥事かもしれない」というリスク・不安のために、警察への通報やクラブ内、あるいは周辺クラブでの情報の共有がなされないことがある。そのため、無用心な状態が続き、また不審者への警戒の目が十分に張り巡らせないといったことが往々にしておきる。災害の予防のためには、ここでも「情報の共有」という当たり前のことが、とても大切である。

4 火災 Fire

火災は、常に気をつけるべきリスクで、実際、艇庫における火災も国内外でしばしば発生している。海外の漕艇誌やウェブサイトでも、時々みかける。



1989年、火災にあう英国 Reading 大漕艇部艇庫(同大ウェブサイトより)

日本でもいくつかの火災の記録がある：

1946(S21)年、前年の大空襲を奇跡的にくぐりぬけた早稲田大・向島艇庫が、隣接工場の類焼で全焼。(ワセダクラブHP/コラム・早稲田ローイング/Vol. 14「100年のつなぎ目」より。)

1984(S59)年、須磨高等の共同艇庫が全焼。しかし2009年に須磨RCが再建し、新たな活動拠点となった。しかしその2年後の2011(平成23)年11月隣接倉庫からの出火で類焼。

2005(H17)年、盛岡三高ボート部艇庫(四十四ダム湖畔)は、漏電により出火、艇10艇とともに全焼。

2013(H25)年5月、和歌山市の元阪和造船所で火災、所内倉庫を艇庫として利用していた和歌山北高、県立医大、和歌山大、和歌山IRCの約20艇が焼失。

いずれも人的被害は出ず、当事者の過失でもなかった。しかし他事例では、蚊取り線香でのボヤ騒ぎなど、艇庫・合宿所の火災リスクは決して軽視できない。たとえ小火(ボヤ)でも笑い話で済まされない。いつも意識し注意すべきだろう。

□放火に対するリスク対策：艇庫周辺に放火の誘因となるようなもの(例：ダンボールなどの可燃性の廃棄物など)を放置しない。常に整理整頓しておく。

□暖房器具、ガス・厨房機器などの火気使用に関するルール・意識の徹底、後始末。

□艇の整備・補修、コーチ艇(モーターボート)の燃料等の取り扱いの管理ルール、意識、実態の安全化。

□消火器、火災警報器等の整備、点検。

5 その他：アスベスト Asbestos

建築に関連する環境被害リスクのひとつにアスベスト問題がある。アスベスト工場就労者や周辺住民の深刻な健康被害を受け、日本ではアスベスト対策は、厳しく進められている。漕艇部艇庫においてもいくつか、アスベスト対策としての改修、改築工事が施工された事例が見られる。実際には、防火材として吹付けられたものが劣化・剥離して日常的に飛散している状況でければ、直接の健康被害はないだろうが、艇庫のアスベスト材の使用、健康リスクがないかどうかを再検証することは大切である。